

Esquire

エスクァイア日本版

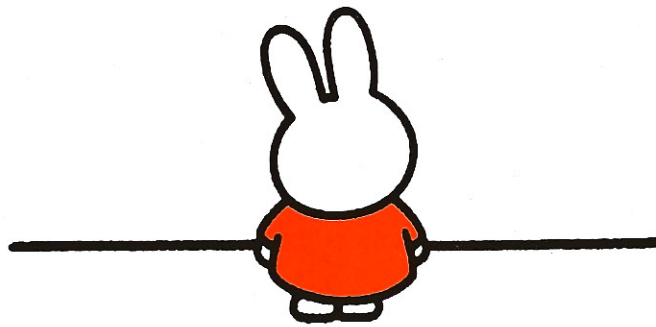
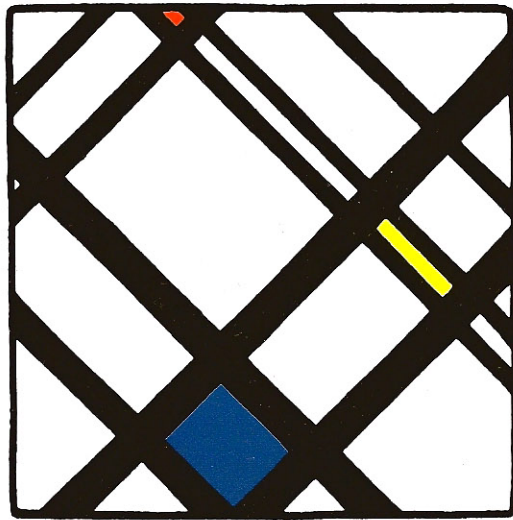
JUL. 2004 Vol.18 No.7

700yen

7

实用だけじゃ、ものたりない。
楽しい水まわりデザイン。

●綴じ込み付録
建築も美しい27の美術館ガイド&
完全マップ付き。



アムステルダム、ユトレヒト、ロッテルダム…etc。
6都市を巡る、建築とデザインの旅。

オランダへ。



「リスト・ウォッチ」(84年) ボディはチタニウム合金、ベルトはゴム。ボディもベルトも美しさとフィット感を追求するためフラットなデザインになっている。



「オランダ硬貨」(80年) ペートルクス女王の横顔とオランダの平均的な国土。そして数々の国民性を表現したオランダ硬貨(ギルダー)。'82年からユーロに切り替わる2000年まで流通した。



「鉛筆削り」(96年) オランダ最大の職業紹介所「Randstad」のノベルティとして作られた。デスクアクセサリ・シリーズの一つ。点で自立しているため揺れる姿がユニークだ。



BRUNO NINABER VAN EYBEN

ブルーノ・ニナバー・ファン・アイベン/インダストリアルデザイナー

Creator's File 08

オープンな考えから生まれるダッチ・デザイン。

デルフトの運河沿いの道から少し入った静かな場所に、ブルーノ・ニナバー・ファン・アイベンのアトリエはある。MOMAのバーマネン・コレクションとなったペンダント・ウォッチ、かつて流通していたオランダ硬貨(ギルダー)、そして現在使われているオランダ・ユーロ硬貨と、デザイン史に残る数々の作品を発表してきたニナバー。1985年にパートナーとともに始めた国際デザインコンサルタント会社D3D社は、今やオランダで最大のデザイン会社となった。

しかし彼は6年前にその組織を離れ、この地に自分のスタジオを立ち上げた。「マネージメントの仕事をするのはもういやだったんだ。だから会社を離れて、少数のスタッフと共に小さなスタジオを始めた。今はここでパーソナルなプロジェクトを行っているよ」と、ニナバーは独特のゆっくりとした口調で話す。

モノを成り立たせているさまざまな要素—形態、機能、素材、技術を徹底的に吟味したうえで、再構築されたニナバーのプロダクツは、機能性という最終的な目標に向かって余分なものをそぎ落としていくミニマルな美しさが特徴だ。

「僕がやるうとしてるのは、機能と素材を結合させること。機能の特徴が何かを探すと同時に素材の特徴を探し、その2つを結びつける。例えば、このリスト・ウォッチ。普通時計は留め具から壊れるけれど、この時計は、結合部分をねじで留めるのではなく、スライド式にはめるようになっていて壊れない。問題に

なっている部分の解決法を考えると、その方法自体がデザインになる。それぞれの要素がそれぞれのメンタリティをもっていて、それらを生かしながらもシンプルでデザインになる。論理的思考、機能重視のデザイン、ミニマルな美しさにどことなく漂うユーモア。ニナバーの作るプロダクツは非常にオランダ的に思える。オランダのプロダクツの特徴は何だと思っ？」と彼に問うと、少し考え

た後、またゆっくりと答えた。「オランダのプロダクトデザインの特徴は、実用的、機能的、合理的、といういろいろあるけれど、ようするにアンチ・ブルジョワだということ。あとはユーモア、それもサイレンス・ユーモアだ。モノはこうあるべき、でもなぜ? いつもこの問いかけから始まる。固定した考え方を僕は受け入れない。僕はこうやるけど、他の人には違うやり方があるだろうし、正解はひとつじゃないんだ。とてもオープンな考え方だと思っし、それはオランダ人のメンタリティの特徴でもある。誰かがあの人は重要だという、もう一人がすぐになぜ重要なのかと聞く。オランダ人はステイタス、正統性、重要性、パワーを認めない。この国にはオープンに議論ができる雰囲気がある。そしてデザインもこのメンタリティを反映しているのだと思っよ」

Bruno Ninaber van Eyben

1950年生まれ。アムステルダムを卒業後、セルフ・プロデュースによるプロダクツを発表。85年にはスタートアップで、97年ブルーノ・ニナバー・ファン・アイベン・デザインとプロダクションを立ち上げる。